

## 里山の秋

戸村 真理子（八街市）

日 時：2018年10月6日（土）9時30分～12時 天候：晴

場 所：京成線 公津の杜駅周辺の里山（成田市）

参加者：14名

担当指導員：小川洋子、坂本文雄、伊藤道男、戸村真理子

長雨が続いた後の、少し歩くと汗ばむような秋晴れのもと、昨年に続き、公津の杜周辺の里山を散策した。昨年より2か月早い10月初めの里山は、草や木の実が実り、虫たちも活発に活動していて、次々に楽しい発見があった。台地には、スダジイ、シラカシ、コナラなどのドングリが落ち、アケビやカラスウリの実が色づいていた。アケビの実を割って何人かが食べてみた所「甘い、種が多い、皮を味噌で炒めるとおいしいよ」の声。また、台地の畑一面にソバが植えられ白い花が咲いていた。そこで、ソバの赤い茎を見た後、昔話「おそばのくきはなぜあかい」（石井桃子作）の話をし、茎が赤いわけや、古名「ソバムギ（蕎麦）」に麦の字が付いているわけなどを話すと、皆さんなるほどと納得顔。また、雨上がりの半日陰には、いろんなキノコが見られた。坂本さんがテングダケの傘の斑点を触るとぼろぼろと落ちた。これは、つぼ（外被膜）のかけらとのこと。他にも珍しいノウタケ、フウセンタケ、シロソウメンタケなども見つかって、名前の面白さも楽しんだ。

谷津田に出ると、ヒヨドリやモズの甲高い声が聞こえてきた。苧田にはアキアカネが群れ、ツマグロヒョウモンやアカボシゴマダラが飛び、いかにも里山の秋といった風景だ。赤い実のツリバナやシロダモ、色づき始めたムラサキシキブやトキリマメの実があって嬉しくなる。その時、小川さんが細い黄緑色の茎のような虫を見せてくれた。それは何とオナガグモの幼体とのこと。林縁にはジョロウグモがあちこちに巣を張っており、そこにいるジョロウグモの雄やシロガネイソウロウなどを見つけた。道端のエノキの葉にはアカボシゴマダラの幼虫もいて、最後まで驚きの発見が続いた。

最後に「里山でビンゴ」を基に、今日の観察を振り返った。皆さん五感を使ってたくさんものを見つけて、身近な里山の豊かな秋を十分に楽しめたようだ。



「おそばの茎はなぜ赤い」から自然観察に



斜面林には楽しいものがいっぱい